

祈りの諸問題 第4回

□ 祈りに関する学び全体のアウトライン (2019年9月8日から開始)

1. 祈りの原則 (5回)
2. 祈りの3つのタイプ (3回) 個人的な祈り・集会での祈り・終末期における祈り
3. 旧約聖書の中の祈り (5回)
4. 新約聖書の中の祈り (20回)
5. 祈りの条件 (4回) 祈り手に関する条件・祈り方に関する条件
6. 祈りのルール (3回)
7. 祈りの諸問題 (5回の予定)

□ 「祈りの諸問題」のアウトライン

1. 誤った祈り
2. 祈りと 神の摂理
3. 祈りと 神の偉大さ
4. 祈りと 神の全知
5. 祈りと 神の主権
6. 祈りと 自然の法則
7. 祈りを妨げるもの
8. 聖書箇所での誤った適用
9. 祈りが答えられないことについて

前回から、第9の問題に入りました。第9の問題は、これまでの祈りに関する学びの集約のような内容です。本日9月12日と次回9月26日で終了する予定です。

□ 第9 祈りが答えられないことについて (アウトライン)

1. 事例
2. 祈りが答えられない10の理由
3. 大きな3つの原因
4. 祈りが答えられないとき、自問すべき6つのこと
5. 祈りと答えの関係から見る4つのタイプ
6. 祈りが答えられるための10の条件
7. 病人のための祈り 9つの原則

□ 第9 祈りが答えられないことについて

3. 大きな3つの原因：前回扱った「祈りが答えられない10の理由」は、どちらかと言うと、個別具体的な理由を列挙したものであった。ただし10番目の「不信仰」、これは主要な原因である。祈りを答えられないようにしてしまう大きな原因は、この不信仰に加えて、あと2つ、合わせて3つある。日々の祈りの生活の中で、もし個別具体的な理由をチェックしてもなお、祈りが「自分の胸の中をただ行き来している」（詩35：13）のを感じるなら、次の大きな3つの原因にあたっている可能性がある。

(1) 信仰の欠如によって、答えられない

- ① 私たち自身が自分の祈りに制限をかけていることがある。それは、信仰の欠如である。ここで言う信仰とは、救いを受けるための信仰ではない。神が私たちの祈りに答えてくださるという確信である。
- ② マタイ 21：21～22、マルコ 11：22～24
 - いずれの箇所も、私たちの祈りの生活の中で、信仰を働かせるべきことを教えている。
 - 信仰を働かせるとは、具体的にどういうことか？ → 祈り求めたことはすでに受け取ったと堅く信じることである。これが信じて祈るということである。
- ③ 信じて祈る・・・この箇所の誤った適用に注意。「あなたが欲しい物を何でも求めなさい。求めれば与えられます。」という主張は、失望につながるだけである。聖書はそのようには決して教えていない。
- ④ 信じて祈るといふとき、何を信じるのかと言うと、祈りの力ではない。神を信じるのである。神のことばを信じるのである。この信仰は、神の約束を握るのである。神が約束されたことであるから、私たちは確信をもって祈ることができる、そしてすでに得ていると信じるのであり得るのである。
- ⑤ 私たちが願い求めれば何でも与えられる、ではない。神が約束されたことであれば、それはそのように必ず成る、ということである。私たちの信仰を、神の約束の上に立てよう。
- ⑥ このような信仰が欠如していると、どんなに祈っても、神からの答えは来ない。

- (2) 神のみこころによって、答えられない
- ① 神がそのみこころをもって、私たちの祈りに対する答えをしないことがある。
 - ② マタイ 26 : 39 「わが父よ。できることなら、この杯をわたしから去らせてください。しかし、わたしが望むようにではなく、あなたが望まれるままに、なさってください。」
 - ここでは、イエスが祈っておられる。イエスの願い求めは、できることなら、神の怒りの杯を飲みたくないということ。
 - この祈りに対する答えはなかった。イエスの祈りのとおりにそれを受け入れて答えるというのは、神のみこころではなかったからである。
 - ③ I ヨハネ 5 : 14~15 何事でも神のみこころにしたがって願うなら、神は聞いてくださるといふこと、これこそ神に対して私たちが抱いている確信です。私たちが願うことは何でも神が聞いてくださると分かるなら、私たちは、神に願い求めたことをすでに手にしていると分かります。
 - この箇所は、祈るときには神のみこころに従って祈るべきことを強調している。もし私たちが神のみこころに従って祈るなら、その祈りは答えられる。しかし、そうでないなら、祈りは答えられることはない。神のみこころによって、止められるからである。
- (3) 正しく「イエスの名によって」祈っていないために、答えられない
- ① 私たちは、イエスの名をよって祈る。祈りの内容が、イエスの名によって祈ることにふさわしくなければ、その祈りは答えられない。
 - ② 下線部「私たちは」・・・新約の信者である私たちである
 - ヨハネ 16 : 23~24 まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしの名によって父に求めるものは何でも、父はあなたがたに与えてくださいます。今まで、あなたがたは、わたしの名によって何も求めたことがありません。求めなさい。そうすれば受けます。あなたがたの喜びが満ちあふれるようになるためです。
 - イエスの初臨までは、イエスの名において祈るということはなかった。イエスは十字架にかかる前に、弟子たちに、これからはイエスの名を用いて父なる神に祈るように命じた。
 - ③ 二重下線部「ふさわしく」・・・イエスの名において祈るとは、どういうことか
 - メシアであるイエスのご性質に一致しつつ祈る、ということ
 - イエスの生き方、イエスのご性質に反するようなことを、祈り求めることのないように気をつけよう。

4. 祈りが答えられないとき、自問すべき6つのこと

- (1) 神のみこころに調和しているか？
- (2) 正しくイエスの御名を用いて祈っているか？
 - ① 「イエスのお名前によって祈ります」、このことばを単に祈りの結びのことばにしてはならない。儀式的・形式的に口にするものないようにしたい。
 - ② イエスの御名を用いて祈るとは・・・
 - イエスの権威において祈る
 - イエスのために祈る
 - ③ 祈りの内容は、メシアのご性質にふさわしく、メシアの生き方と調和するものであること。
- (3) 本当に信じて祈り、かつその答えを期待しているか？
 - ① 神のことば、聖書に記された明確な約束を手にして祈るときは、そうなりと信じる信仰を持って祈る（その例は、ヤコブ 1:5 → 知恵に欠けている人には、神は知恵を与えてくださる）
 - ② 私たちの祈りの基盤は、神を信じる信仰、神のことば、神の約束を信じる信仰である。
- (4) 利己的な動機で祈ってはいないか？
- (5) 粘り強く（しつこく、忍耐をもって）祈ってきたか？
- (6) 聖霊に頼って祈ってきたか？

祈りは、父なる神に向かい、イエスの名において、そして、聖霊の力によって祈る。

5. 祈りと答えの関係から見る4つのタイプ・・・神は私たちが祈ったとおりに答えず、別の形で答えてくださることがある。そして、その答えは、実は、私たちが祈ろうとした目的、あるいは祈るときに心の中で持っていた願いをかなえることがある。この観点から祈りと答えの関係を分類すると、次のように、4つのタイプになる。

祈りと答えの4つのタイプ		祈りの目的はかなえられたか	
		○	✕
祈ったとおりになったか	○	○/○ (1)	○/✕ (3)
	✕	✕/○ (2)	✕/✕ (4)

(1) 祈ったとおりになり、目的もかなえられた

- ① 士師 16 : 28~30 サムソンの祈り「もう一度だけ私を強めてください」 目的「一度にペリシテ人に復讐したいのです」
- ② I列王 18 : 36~39 エリヤの祈り「火をもって答えてください」(I列 18 : 24, 37) 目的「民が主こそ神であることを知るように」(37節)
- ③ ヨハネ 11 : 41~45 イエスの祈り「わたしの願い」(41節) =ラザロのよみがえり(23節) 目的「周りにいる人たちのため。父なる神がイエスを遣わされたことを、彼らが信じるようになるため」(42節)
- ④ ルカ 23 : 42~43 犯罪人の願い「あなたが御国に入られるときには、私を思い出してください」 目的：救い →イエスの応答「あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます」(43節)

(2) 祈ったとおりにならなかったが、目的はかなえられた

- ① 創世記 17 : 18 アブラハムの願い「イシュマエルが御前で生きますように」 目的「自分自身から生まれ出てくる者が、自分のあとを継ぐ」(創世記 15 : 3~6) →創 17 : 19「いや、あなたの妻サラが、あなたに男の子を産むのだ」
- ② 創世記 18 : 22~33 アブラハムの願い「ソドムを滅ぼさないでください」 目的：「正しい者を悪い者とともに殺すことがないように」(25節) =ロトが助かりますように(→創世記 19 : 29)
- ③ マルコ 5 : 18~20 悪霊につかれていた人の願い「イエスのお供をさせてほしい」 目的：イエスの弟子として人生を歩みたい →20節「イエスが自分にどれほど大きなことをしてくださったかを、デカポリス地方で言い広め始めた。人々はみな驚いた。」 → マルコ 8 : 1~10 4千人の給食
- ④ IIコリ 12 : 7~10 パウロの祈り「肉体のとげを去らせてください」 目的「神がほめたたえられますように」(IIコリ 1 : 3)、「神に栄光を帰する」(IIコリ 1 : 20)

(3) 祈ったとおりになったが、目的はかなえられなかった

- ① 民数記 11:4~34 民の不平「肉を食べたい」 目的「エジプトは良かった」
(18節) = 幸福感がほしい → 詩篇 106:13~15 彼らはすぐに みわざを忘れ 主のさとしを待ち望まなかった。彼らは荒野で激しい欲望にかられ 荒地で神を試みた。そこで 主は彼らにその欲するものを与え 彼らのいのちを衰えさせた。
- ② Iサム 8:1~22 長老たちの要望「(士師ではなく)王を与えてください」(5節) 目的「ほかの国民のようになりたい」(20節) → 【補足】イスラエル民族は神が選んだ民である。ほかの国民と同じになることは、神のみこころではない。王についても、神の選びによるのであって、力ある者が王権を握るのではない。

(4) 祈ったとおりにもならず、目的もかなえられない。その理由は9つ

- ① 信仰の欠如・・・マタイ 21:21~22
- ② 利己的な動機・・・ヤコブ 4:3「求めても得られないのは、自分の快樂のために使おうと、悪い動機で求めるからです」
- ③ 罪に浸る生活・・・詩 66:18「不義を見出す (手放さずに握っている、喜んで見つめる)」
- ④ 同情心の欠如・・・箴言 21:13
- ⑤ 神のみこころに反する・・・Iヨハネ 5:14
- ⑥ 夫婦間の不調和・・・Iペテ 3:7
- ⑦ 聖霊に頼っていない・・・エペソ 6:18
- ⑧ 高慢 (プライド)・・・ヨブ 35:12~13 「おごり高ぶっているからだ」
- ⑨ 不従順・・・ヨハネ 15:7「わたしのことばがあなたがたにとどまっているなら」 → 主の命令、主のことばに不従順ならば、祈りは答えられない

聖霊に頼るとは、具体的にどのようなことでしょうか

□10月からの熊本聖書フォーラムのテーマについて

祈りに関する学びは、次回9月26日の「祈りの諸問題 第5回」をもって終了予定です。

10月からのテーマにつきまして、濱崎兄から「これまでの祈りの学びにつながるような、霊的なことがらについて、テーマを選んではどうでしょうか」と提案をいただきました。

フルクテンバウム博士の論稿の中に、「スピリチュアル・ライフ (霊的生活、信仰生活)」に関するものがあります。次回、9月26日に、そのアウトラインを皆さまにご紹介して、テーマとして選ぶかどうか、決めたいと思います。